

令和 8 年度第 1 回三重県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
議事概要

日時：令和 8 年 9 月 10 日（木）
午後 6 時 30 分から午後 8 時 00 分
場所：オンライン開催（Zoom）

1 出席委員 15 名

伊藤 強、大井 智香子、國分 実伸、田邊 寿、久保田 久美、近藤 辰比古、
志田 幸雄、田中 彩子、玉田 浩一、富内 広美、西口 和代、服部 博司、福森 哲也、
眞砂 由利、山崎 和彦

2 傍聴者 なし

3 議 題

（1） みえ高齢者元気・かがやきプラン（第 9 期介護保険事業支援計画・第 10 次三重
県高齢者福祉計画）の取組状況について

（委 員）

三重県リハビリテーション支援センター事業による派遣についてお尋ねしたい。言語
聴覚士が地域ケア会議には理学療法士や作業療法士と同じように派遣されているが、
住民集いの場には全く派遣がない。何か理由があるのか。

（事務局）

ニーズがあつての派遣になるので、ニーズがないのではないかと思います。

（委 員）

介護人材の確保について、目標値の 33,855 人は令和 7 年度の数値が記載されている
が、令和 8 年度の目標でよいのか。また、E P A、技能実習、在留資格介護など様々な
資格で外国人が介護現場で従事しているが、外国人の数を教えていただきたい。

介護サービス基盤の整備について、令和 7 年度に南勢志摩圏域で広域型 24 床が地域
密着型から転換したという説明があつたが、地域密着型から広域型に転換された理由
を教えていただきたい。

（事務局）

目標値の人数については、厚生労働省が 1 年遅れで公表するため、現状値の 31,855 人
は、令和 7 年度に公表された令和 6 年度の数であり、令和 8 年度は令和 7 年度の人
数が公表される。また、外国人の数は、厚生労働省が公表していないので、把握でき
ない。

介護サービス基盤の整備については、地域密着型と併設されていた施設であり、地域
密着型から広域型に転換することで効率的な運営を図りたいという趣旨での転換で
ある。

(2) みえ高齢者元気・かがやきプラン（第10期介護保険事業支援計画・第11次三重県高齢者福祉計画）の構成案について

(委員)

介護保険事業計画の各市町における検討は既に開始されている。その中で、県の支援計画の内容を各市町の計画に反映したいという話があるため、県の支援計画の検討内容を早めに市町に連絡することが望ましいと思うが、県はどのように考えているか。

(事務局)

各市町へのヒアリングを今後予定しており、ヒアリングの場で情報共有したい。

(委員)

各市町が一番知りたいのは、介護保険料や国が示す方向性の話である。

併せて支援計画策定にかかる議論の内容もヒアリングの場で結構なので、ぜひ共有をお願いしたい。

(委員)

介護老人保健施設において、介護テクノロジー導入支援事業補助金を活用し、介護テクノロジーを導入したことで、介護負担が軽減されている実感があるので、事業の継続をお願いしたい。すべての介護施設がこの補助金を活用し、テクノロジーを導入できるように支援をお願いしたい。

(事務局)

介護テクノロジー導入支援事業補助金については、毎年度、事業者に対して事業量調査を実施し、翌年度の県の予算に反映されている。令和8年度は、補助金の予算について申請額が予算を上回ったことから、要望に応えられなかった事業者もあった。来年度以降の予算についても事業量調査を実施し、調査に基づいた予算確保に努めていきたい。

(3) 三重県認知症施策推進計画の取組状況について

(委員)

認知症基本法にある「新しい認知症観」は、県民に十分浸透しておらず、従来の認知症に対する考え方との違いから理解しにくい面がある。このため、各市町でPRをしていくことが大事であるが、県においても具体的なPR方法を考えているか。

(事務局)

認知症サポーター養成講座の講師役であるキャラバンメイトを養成し、養成講座の中で啓発するとともに、三重県認知症希望大使を任命し、講演会の開催などを通じて、普及啓発に取り組んでいきたい。

(委員)

各市町が「新しい認知症観」を住民の方に浸透させられる方法を、県から市町に対して周知していただくようお願いしたい。

以上